

寝屋川市の学校給食はどう変わるの？

おおさかパルコープ寝屋川まちづくり連絡会は

「寝屋川・子どもたちの給食をよくする会」に賛同して共に活動しています。

2020年11月に寝屋川市教育委員会から「今後の学校給食（温かい給食の充実等）基本方針」が発表されました。寝屋川市の給食がどうなっていくのか、内容についてお知らせします。



中学校給食は・・・

今（2021年度）は民間の調理場からお弁当箱で運ばれるデリバリー方式ですが・・・

2023年度から

1つの小学校から1つの中学校に運ばれる親子方式
（啓明・三井・田井・桜・占野小学校の5校の予定）

それ以外の学校は・・・

拠点集約型調理場（給食センター）（楠根小学校内に建設予定）から複数の学校に届けられる方式に変わります。

2023年度開校予定の

小・中一貫校（明和・梅が丘小学校と第四中学校）の給食は・・・

学校には給食室がなく、拠点集約型調理場（給食センター）（楠根小学校内に建設予定）から学校に届けられる予定です。

今後10年で築後50年を経過する小学校

東・西・南・北・第五・国松緑丘小学校は・・・

用地が見つければ、拠点集約型調理場（給食センター）（新たに建設予定）から学校に届けられる予定です。



寝屋川の誇りである自校方式

（各学校に給食室がある）の良さは・・・

給食がどのように作られているのか、子どもたちがどのように食べているのか、作る人と食べる人のふれあい・交流があります。

作っている物のおいもし、食欲もそそります。

また、学校の行事や授業等に合わせた配慮もできます。

子どもたちが給食を取りに来る時間に合わせた調理や配缶時が可能です。

（例えば、麺類などは取りに来る直前に配缶します。）



拠点集約型調理場（給食センター）だと・・・

どうしても運ぶ時間が必要になります。自校方式のように給食時間に合わせた調理や配缶が難しくなります。

また、大量の給食を作るため、献立や食材に制限があったりします。

引用：寝屋川・子どもたちの給食をよくする会